

第7回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会実施要項

- 1 大会の趣旨 団員にスポーツの喜びを経験する機会とより伸びるための研修の場を与え、バレーボールを通じて団員相互の交流を深め、仲間意識と連携を高めることにより、スポーツ少年団活動を一層豊かなものとし、地域における団活動の活性化を図ることを目的として実施する。
- 2 主催 財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団
財団法人日本バレーボール協会
日本小学生バレーボール連盟
財団法人広島県体育協会広島県スポーツ少年団
- 3 後援 文部科学省
広島県教育委員会
広島市
広島市教育委員会
- 4 協賛 大塚製菓株式会社
株式会社ミカサ
- 5 支援 独立行政法人日本スポーツ振興センター
- 6 協力 財団法人広島県バレーボール協会・広島県小学生バレーボール連盟
財団法人広島市スポーツ協会広島市スポーツ少年団
財団法人スポーツ安全協会
- 7 主管 第7回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会広島県実行委員会
- 8 開催期間 女子 平成22年3月26日(金)～29日(月)
男子 平成22年3月27日(土)～29日(月)
- 9 会場 広島県立総合体育館(広島グリーンアリーナ)ほか
広島市中区基町4-1 082-228-1111
- 10 集合・解散 (1) 集合 女子 平成22年3月26日(金) 11時
男子 平成22年3月27日(土) 10時30分
(2) 解散 男女 平成22年3月29日(月) 14時(閉会式終了後)
- 11 開・閉会式 (1) 開会式 3月27日(土) 17時
(2) 閉会式 3月29日(月) 13時
開・閉会式ともに参加全選手はユニホームで参加すること。
- 12 大会日程 3月26日(金) 女子指導者会議、予選リーグ or 平和学習
3月27日(土) 女子平和学習 or 予選リーグ、技術講習会、開会式、交歓交流会
男子指導者会議、予選リーグ、技術講習会、開会式、交歓交流会
3月28日(日) 女子決勝・交流トーナメント、交流会(トーナメント敗者)
男子決勝トーナメント or 交流リーグ、平和学習
3月29日(月) 女子準決勝・決勝 or ソフトバレー交流会、閉会式
男子決勝 or ソフトバレー交流会、閉会式

13 参加資格 (1) 団員

次の条件を満たす者で、都道府県スポーツ少年団本部長が推薦する団員。

- ① 平成21年度日本スポーツ少年団登録をしている平成21年4月1日現在小学校4年生から6年生の団員。
- ② 集団生活に際し、規則正しい行動のとれる者。
- ③ 大会日程に耐えられる健康な心身の持ち主で、大会参加に支障のない者。
- ④ 保護者に大会参加の承諾を得た上、通学学校長に大会参加の届出を行った者。

(2) 指導者

平成21年度日本スポーツ少年団登録をしている者で集団指導の能力に優れ、都道府県スポーツ少年団本部長が推薦する者。かつ、次の条件を満たすこと。

- ① 指導者（監督・コーチ・マネジャー）のうち1名は、有資格指導者（認定員・認定育成員）であること。
- ② 指導者（監督・コーチ・マネジャー）のうち1名は、(財)日本バレーボール協会ならびに日本小学生バレーボール連盟が共催する全国小学生バレーボール指導者研修会の受講証明書を所持していること。
- ③ 指導者（監督・コーチ・マネジャー）のうち1名は、成人であること。

(3) その他

大会参加者は、大会主催者が指定する宿舎に宿泊し、勝敗に関係なく全日程に参加すること。

14 競技規則 平成21年度(財)日本バレーボール協会の定める6人制競技規則による。

但し、別に定める小学生バレーボール・フリーポジション制を用い、さらに21点のラリーポイント制を採用する。

また、別に示す「第7回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会確認事項」を遵守する。

15 チーム編成 監督、コーチ、マネジャーは各1名とし、特別な事情がない限り選手と同一の単位団所属であること。

選手は12名以内とし、同一の単位団所属であること。

なお、都道府県大会が実施される場合は、都道府県大会と同じ団員(選手)で編成し、病気・ケガなど特別な事情がない限り団員(選手)の交代は出来ない。

※ 大会期間中における監督、コーチ、マネジャーについては、特別な事情がない限り交代できない。

16 参加チーム数および人数とその選出

*女子48チーム(1チーム15名以内) 計 720名

参加チームは各都道府県1チームの計47チームと開催県より1チームの合計48チームとする。ただし、不参加県があった場合、前年度バレーボール登録女子団員数の順位により追加県の参加を認める。なお、この場合、同一市区町村より2チーム参加することはできない。

*男子10チーム(1チーム15名以内) 計 150名

全国9ブロック(北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州)から代表1チームと開催県より1チームの合計10チームとする。(各ブロックにおいて協議し決定すること。)

17 使用球 (財)日本バレーボール協会が公認する人工皮革8枚軽量カラー4号球「ミカサボール」とする。(円周63.0±1.0cm、重量210±10g)

*ボールの内気圧については6人制競技規則を遵守する。

*スポーツ少年団マークが刷り込まれた「ミカサ」の人工皮革カラーボール(MVA500)を使用する。

- 18 競技服装 選手の背番号は1～99までとするが、1～12までが望ましい。
ユニホーム2着以上(色の異なるもの2種類以上)用意すること。
ユニホームには、必ず団員章(原則として左肩)をつけること。
指導者(監督、コーチ、マネジャー)の服装は、短パン・Tシャツは不可とし、監督、
コーチ、マネジャー章を各チームで用意し、必ず左胸部につけること。
- 19 参加申込 各都道府県スポーツ少年団は、所定の申込書により本部長名をもって申し込むこと。
また、申込書は2部作成し、平成22年1月22日(金)までに各1部を下記宛にそれぞれ郵送すること。
*財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団
〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
TEL 03-3481-2222
*第7回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会広島県実行委員会事務局
〒730-0011 広島県広島市中区基町4-1
財団法人広島県体育協会広島県スポーツ少年団
TEL 082-221-4600
- 20 組合せ 大会参加申込締切後、大会実行委員会が公開で責任抽選を行い、当該チームに通知する。
なお、大会二日目(3月27日)の指導者ミーティングにおいて、男女とも決勝トーナメント、交流トーナメント、交流リーグ戦の抽選会を行う。
- 21 チーム受付 女子：平成22年3月26日(金)午前11時までに広島県立総合体育館大アリーナ
1階中央ホール
男子：平成22年3月27日(土)午前10時30分までに広島県立総合体育館小アリーナ
3階ホール(エレベーター乗降口前)
- 22 指導者会議 女子：平成22年3月26日(金)午前11時30分より広島県立総合体育館地下1階
会議室で行う。
男子：平成22年3月27日(土)午前11時より広島県立総合体育館小アリーナ2階
控室で行う。
監督は必ず出席すること。
- 23 表彰 女子 (1) 優勝チームには、賞状、優勝旗(持ち回り)、優勝杯(持ち回り)、賞品
(楯・メダル等)を授与する。なお、優勝杯レプリカは、閉会式後に授与する。
(2) 第2位(1チーム)、第3位(2チーム)には、賞状、賞品(楯・メダル
等)を授与する。
(3) 特に敢闘を認められるチームには、賞状、賞品(楯等)を授与する。
(4) 参加者全員に参加賞を授与する。
男子 (1) 優勝チームには、賞状、優勝旗(持ち回り)、優勝杯(持ち回り)、賞品
(楯・メダル等)を授与する。なお、優勝杯レプリカは、閉会式後に授与する。
(2) 第2位には、賞状、賞品(楯・メダル等)を授与する。
(3) 参加者全員に参加賞を授与する。
- 24 参加者の宿泊費及び食事代
大会期間中の宿泊費・食事代等必要経費については、(財)日本体育協会が負担する。
- 25 傷害保険 大会期間中(前後の移動日を含む)(財)日本体育協会は、開催基準要項に基づき、参
加者全員を被保険者とした傷害保険に加入する。

- 26 携 行 品 (1) 団体携行品
① 日本スポーツ少年団が交付した行進用の都道府県スポーツ少年団旗一式
② バレーボール用具一式
(2) 個人携行品
① 交歓用記念品として一人 500 円程度の郷土民芸品等
② 大会期間中の生活用品等
③ 常備薬、健康保険証
- 27 宿 舎 大会期間中は、参加者全員が下記宿舎に宿泊する。
グランドプリンスホテル広島
〒734-8543 広島市南区元宇品町 2 3 - 1
TEL 0 8 2 - 2 5 6 - 1 1 1 1
- 28 そ の 他 各チームにおいて次のことに留意すること。
(1) チームエントリー監督・コーチ・マネジャー・選手以外の宿舎の申込みはできないので、他の宿舎をチーム側で独自に手配すること。
(2) 選手の健康管理については、指導者及び保護者が十分に注意して出場させること。
- 29 問 合 せ 先 第7回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会広島県実行委員会事務局
〒730-0011 広島県広島市中区基町 4 - 1
財団法人広島県体育協会広島県スポーツ少年団
TEL 0 8 2 - 2 2 1 - 4 6 0 0
FAX 0 8 2 - 2 2 2 - 8 0 4 0

この事業はスポーツ振興基金助成活動事業であり、このスポーツ振興基金の助成金は、政府からの出資金とスポーツ振興基金支援企業グループからの寄付金を財源とし、その運用益により助成金が支払われます。